

地域緩和ケアサポートセンターだより

発行所 財団法人三友堂病院

山形県米沢市中央6丁目1-219

2013年2月11日

(平成25年)月曜日

第11号

- ★平成25年度三友堂病院地域緩和ケアサポートセンターの目標 (1面)
- ★平成24年度山形県在宅医療推進モデル事業 第2回事例検討ならびに情報交換会 (2面)
- ★緩和ケアミニ講座 (3面) ★季節の行事 (3面) ★平成24年度活動報告会のご案内 (4面)

平成25年度三友堂病院地域緩和ケアサポートセンターの目標

『在宅療養支援型緩和ケア病棟』を中心とした地域緩和ケア

地域緩和ケア

サポートセンター長

加藤 佳子



二〇一三年を迎えたばかりと思っ
ているうちに一月も終わりました。

昨年は当センターの「在宅緩和ケア推進事業」が平成二四年度山形県在宅医療推進モデル事業に選ばれました。十一月十日に行われた第十一回三友堂病院医学フォーラムは、当センターの担当で、「緩和ケアって何？」最後まで自分らしく生きるために「」がテーマでした。参加者が多数で非常に好評でした。私どもの緩和医療・緩和ケアが病院内の緩和ケアから「在宅緩和ケア」に拡大していることが、多くの方々に認められた結果でしょう。

しかし、在宅緩和ケアは私どもセンターの職員のみで行なわれたわけではありません。介護支援センター・訪問看護ステーション・医療相談員の皆様の支援が不可欠でした。地域緩和ケアを担う多くの方が当センター主催の緩和ケア研修会に参加され、熱心に在宅療養支援のための事例検討や情報交換を行ってきました。地域の支援者の方々とお互いに顔が見える関係が構築されてきていることを実感しています。置賜地区の医療や介護の専門家の皆さんが、患者さんの希望に沿って在宅移行の準備も在宅緩和ケアも、安心して依頼できる力を備えていることを確信できました。一方、患者さんやご家族はこのような「地域緩和ケア」が行なわれていることをほとんど知りません。病気になるったら病院にお任せする

しかないと思っている人が大部分で、在宅療養について想像もできないようです。

治らない病気になったらどうするか、人生の締めくくりをどうしたいか考えている人は多くはありません。他人の世話になりたくない、他人に家の中に入って欲しくないと言う人もいます。事故死や突然死でない限り、介護が必要な期間が必ずあります。そのような状況になった時、在宅で医療が、看護や介護が受けられる支援体制ができていることを元気な時から知っていれば、安心してつながるでしょう。

当センターも今年開設5年目。患者さんや家族・市民の方々に「地域には緩和ケアの支援体制が整っている」と広く正しく伝えていくことを目標にいたします。

今年度事業到達点

- ・地域に質の高い緩和ケアを普及・推進することを目的とし、がん患者が安心して在宅で療養できる「在宅療養を支援するシステムの構築」を事業活動の目標としている
- ・そのために三友堂病院地域緩和ケアサポートセンターは在宅療養支援型緩和ケア病棟を中心にその機能を十分に発揮して、コーディネーターの役割を継続して担っていく

今後の方向性：地域の連携と啓発

- ・センターと地域の在宅医療に携わる訪問看護ステーション、地域包括支援センターおよび医師会などの施設・機関協働の取組みを活性化
- ・地域住民に対して、地域に緩和ケアの支援体制が整っていることを広めていく

**平成二四年度
山形県在宅医療推進モデル事業
事例検討ならびに情報交換会報告**

副センター長 黒田 美智子

緩和ケア病棟に求められている役割は「看取り」だけではなく、患者の苦痛を緩和して在宅療養を支援すること、地域の医療チームとも連携し在宅療養のサポートを行っていくことにあります。特に「在宅療養支援機能の強化」は必須の役割といわれており、三友堂病院地域緩和ケアサポートセンターでは、開設当初からの理念としてこれを掲げ「患者さんが住み慣れた場所で、その人らしく生きること」を支援し、地域の医療・介護・福祉関係者との連携強化に努力してきました。

去る平成二五年一月二四日(木)、在宅で活躍している看護・福祉・介護に携わっている多職種の皆さんとの事例検討会ならびに情報交換会を開催いたしました。今年度、当サポートセンターは「山形県在宅医療推進モデル事業」を展開しており、その事業の一環として今回が二回目の開催となります。参加してくださった方々は、訪問看護師をはじめケアマネージャー、訪問入浴サービス事業所、当院から医師、MSW、緩和ケア病棟看護師など合わせて二五名です。

はじめに、今回新しく導入した塩酸モルヒネの持続ポンプの運用を中心に事例検討を行いました。新しい機器を使用するにあたっての機器の安全管理と運用、在宅に移行した後の訪問看護師と当院看護師との連携調整に

ついて振り返りました。がん終末期患者の退院支援においては、一時的な退院にせよ、悪化する病状を抱える患者本人だけでなく、患者を支える家族や介護者の不安への対応、家族関係の調整が求められています。入院による短期間での症状緩和、在宅での症状緩和治療の簡素化(自宅でも簡単に利用できる薬剤や機器の使用)、同時に家族関係や介護者の生活状況を含めた情報の聴取を念頭に置いて退院支援を行っていきます。しかし、今回、痛みのコントロールが可能となり次第退院となった時間的余裕がない事例において、さまざまな問題が抽出されました。

今後の対策として、一、安全に機器を取り扱うための改善策として作成、使用した管理チェックリストを更に評価し、安全な投与管理と患者アセスメント情報の共有のための効果的なツールとして活用できるよう再検討する。二、介護者の理解力にあわせて退院オリエンテーション内容の検討や介護体制の早期整備を行う。三、注射麻薬の受け渡し時の駐車場確保のための駐車許可証を発行する。などが提案されました。

他に緩和ケア病棟に入棟されることがない患者さんが自宅で看取りを希望している場合の看取りの体制に関する事など、現状に即した課題を解決していくための建設的な話し合いが行われました。また、退院支援から在宅療養移行までを振り返り、訪問看護師との連携上の不備が指摘され、サポートセンターと訪問看護ステーションの連絡あるいは調整手段として、iPADを使用するイントラネットの利用が意見



として出されました。この件に関しては、医師会を通じて実現可能な方向です。メールによる的確な病棟看護師と情報交換・意見交換が可能になると考えます。

今後も貴重な事例や経験を振り返りながら地域医療を担う皆さんとの話し合いを繰り返し、「顔の見える関係」を作っていくと思います。共に実績を積んでいくことが、この地域のチーム力を高めていくことにつながると思います。

病院は生活する場所ではなく、ましてや終の棲家ではありません。積極的な治療が望めず、残された時間をどう過ごすか考える時期がきたら、患者さん自身の本来の生活の場所に、ご家族の許にお返ししなければなりません。「家」のもつ力を信じて、その力を引き出すために在宅医療に携わる医療・介護・福祉関係者が連携しあいながら、今後も研鑽を重ねていきたいと思っています。多忙な中、ご参加いただいた各事業所の皆様に感謝いたします。



緩和ケアミニ講座 ー第四回ー

『臨床心理士とカウンセリング』

臨床心理士 吉田 満美子



前号で、昨年十一月に開催された医学フォーラムで催された『心理療法紹介コーナー』を紹介しました。今回はそれに関連して、『臨床心理士とカウンセリング』について、お話しします。

一、『臨床心理士』とはどんな資格なのでしょう？

この資格は、(財)日本臨床心理士資格認定協会が認定する心理専門職です。現在の日本では、心理カウンセラーなどの心理職には国家資格がなく、いずれも民間資格となります。しかしながら、臨床心理士は、指定大学院の卒業が必須であり、五年ごとの資格更新制度が義務づけられているなど高い専門性を求められています。初めて免許取得者が誕生したのは、一九八八年のことで、現在では二万名以上が認定され、全国の様々な現場で活動しています。

二、『カウンセリング』という言葉聞いたことはありませんか？

今では様々な場所で見聞きすることが多くなりましたが、『カウンセリング』という言葉はもともと日本国内に無かったものであることを物語っています。日本には元来「相談」という言葉はありませんが、これは、問題解決のために話をし、意見を聞いたりすること、

人によっては、年上の人が年下の人に人生経験の助言を与えるといったイメージを持つ方もおられるかと思えます。このような心理カウンセリングは問題解決のために相談し、助言をもらうことと思われる方がまだまだ多いのではないのでしょうか？

しかし、私共心理職のいう心理カウンセリングは違っています。相談に来た人に対して助言や指示をすることを目的としていません。なぜなら、カウンセラーは、問題を解決する人はあくまでも来談者自身であるという立場に立っているからです。来談者を尊重し、その方に配慮しながらお話を聴きし、ことばでのやり取りを通して、来談者自身が自分なりに答えを見つけていけることを支援していきます。日常生活では、誰かから、否定されることなく肯定的に、こうであるべきという助言や価値観を与えられることもなく、ただひたすら耳を傾けてもらえるという機会は多くはないと思います。最初は、話を聴いてもらうということについて、恥ずかしいと思われる方が多いかもしれません。しかし、話を聴いてもらいうちにほとんどの方は自然に話したくなる気持ちが高まって、気持ちがお楽になつてくると感じる人が多いようです。

薬剤師・看護師募集

三友堂病院

お問い合わせ：人事企画課

02638(24)3700

季節の行事

クリスマス会

昨年、十二月二日に緩和ケア病棟でクリスマス会を開かせていただきました。私は今年初めての参加でしたが、何人かの患者さんとご家族に参加していただき、音楽や出し物などの楽しいひとときを、川村病棟長をはじめ、他のスタッフと一緒に過ごさせていただきました。音楽では、「ジングルベル」と「もろびとごぞりて」のハンドベルを何日も前から練習し、みなさんの歌声にハンドベルを合わせさせていただきました。



ただきました。つたないハンドベルの音色ではありませんでしたが、温かく見守っていただきありがとうございます。癒しました。音楽や歌は人の心を癒し、笑顔にしてくれるものですね。また、今年の新人、根津香緒里、その先輩の木村彩両看護師による手品も、プロ顔負けの演出で参加者のみなさんにとっても好評でした。終始、音楽や笑い声に包まれた時間となりました。

患者さんとご家族がともに楽しい時間を過ごせたことが何よりでした。また、スタッフとしてそんな大切な時間を共有できたことに感謝しています。体調の関係もあり、なかなか長時間座っていたりすることが困難な患者さんもしやいました。ご参加くださいましてありがとうございます。今後とも当病棟では患者さんとご家族に喜んでもいただけるような企画を継続していきたいと思っております。

(國分恵)



今年度の最後に恒例の緩和ケア活動報告会ならびに講演会を下記のように開催したいと思っております。ぜひご参加のほど、お願い申し上げます。なお、日程・内容等に変更がある場合がございます。詳細につきましては、地域緩和ケアサポートセンターまでお問い合わせください。

平成24年度三友堂病院地域緩和ケアサポートセンター および化学療法室活動報告会 ならびに 緩和ケア講演会

日時:平成25年3月29日(金) 午後6時~7時30分

会場:三友堂病院診療棟2階ホール

第1部 平成24年度三友堂病院地域緩和ケアサポートセンターおよび化学療法室実績報告会

- 1. 平成24年度三友堂病院地域緩和ケアサポートセンター実績報告 緩和ケア病棟 木村 彩
- 2. 平成24年度山形県在宅医療推進モデル事業報告 副センター長 黒田 美智子
- 3. 在宅緩和ケアの実績 緩和ケア病棟 山田 里美
- 4. 化学療法室実績報告 化学療法室 國分 恵

第2部 緩和ケア講演会

「緩和ケアと音楽療法」三友堂病院地域緩和ケアサポートセンター 音楽療法士 小笠原未希

三友堂病院地域緩和ケアサポートセンター 活動報告

平成二四年十一月~平成二五年一月

平成二四年度下半期の緩和ケア関連の学会や研究会等での当センタースタッフの活動について報告いたします。

- 一、学会・研究会活動
- 二、学術・教育講演

加藤佳子

・十一月十八日 於米沢市 ㊦米沢クラブ 秋の公開講座:よりよく生きるために!緩和ケアと人生の終わり方 く健やかに生きる権利を自分で育てる

・十二月十三日 於新庄市 第一回 新庄最上臨床緩和研修会:痛みのない生活をとりたいもどす く自分らしく生きるために

小笠原未希

・十一月二十九日 於米沢市 第九回置賜乳腺ネットワーク:「化学療法中の患者に行った音楽療法」

「乳癌の患者に行った音楽療法」

三、出張講座

渡部芳紀

・十二月十日 於米沢市 訪問看護ステーションきずな:緩和ケアについて

四、センター主催緩和ケア研修会

黒田美智子・吉田美代子・須藤梨絵・山田里美・色摩理美

・一月二四日 第二回在宅療養支援のための事例検討ならびに情報交換会

地域緩和ケアサポートセンター

電話・ファックス

02368(24)8355

痛み教室のご案内

三友堂病院では、隔週火曜日に『痛み教室』を開催しております。どなたでも参加できますのでお気軽においで下さい。

講師 : 地域緩和ケアサポートセンター長 加藤 佳子

場所 : 三友堂病院5階東レクリエーションルーム

曜日 : 隔週 火曜日 時間 : 14:00~15:00

年 月 日 テーマ

平成25年2月12日 痛みの治療(腰・下肢痛)

2月26日 痛みの治療(带状疱疹)

3月12日 モルヒネについて

3月26日 医者にかかる10箇条

4月 9日 終末期医療(リビングウィル)

4月23日 悪い知らせを聞いたとき

5月 7日 痛みの治療(がん)

編集後記

立春を過ぎたというのに米沢の地に春が訪れるのはまだまだ先のようにです。

皆様には、平成二四年度も地域緩和ケアサポートセンターの活動にご理解、ご協力を賜りましてありがとうございました。本年も、より一層、地域緩和ケアの推進に努力し、活動してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(山田里美)